



2022年8月2日

日本鉄道労働組合連合会

## 上場4社の第1四半期決算が3年ぶりに黒字化！

2020年初からのコロナ禍により、JR産業は大きなダメージを受け、JR各社の決算は2020年第1四半期から赤字が続いてきたが、今回、JR上場4社の第1四半期決算が3年ぶりにいずれも黒字化した。これは、労使が、組合員各位の日々の忍耐と努力をベースとしつつ、自助努力を幾重にも積み重ね、政府や地方自治体からの各種支援策を活用しながら奮闘してきた結果であると言える。

振り返れば、JR連合はこの間、同様に苦しい状況に陥っているサービス連合・航空連合との連携を強化し、3産別が共同で「感染拡大防止と社会・経済活動の両立」「中長期的な支援策の継続」「個人債務の返済にかかる配慮や困窮する者の生活支援策」「人流・需要の回復・拡大」「ビジネス利用の促進」などの必要性を各方面へ訴え、国土交通大臣、内閣府特命担当大臣（新型コロナ担当）、厚生労働大臣や財務大臣への要請行動を行ってきた。また、連合、交運労協、経団連をはじめとする関係団体や、各政党との意見交換も繰り返し行ってきた。

これらの取り組みの成果として、幾度にもわたる雇用調整助成金特例措置の期限延長、産業雇用安定助成金のグループ内出向への適用範囲拡大など、JR連合が求めてきた多くの内容が実現し、JR各社のまさに「命綱」となってきた。さらに、延期された政策も多いが、「GoTo トラベル 2.0」や「全国旅行支援」の内容に公共交通利用の促進や利用の分散・平準化という要素が組み込まれたことも、3産別共同行動の成果である。今後、これらの支援策が一刻も早く開始され、需要回復に向けた取り組みが望まれる。

この間のプロセスは、私たちにとって、まさしく綱渡りをするかのような手探りの連続であった。コロナ禍第7波の到来によりご利用が再び減少に転じるなど、JR産業を取り巻く環境は依然厳しく予断を許さない。私たちは今後もコロナ情勢の一進一退を想定してウィズコロナ社会を生きていく必要があり、産業の現状を直視しつつ、政府や関係各方面に対し、理解を要請し、状況に即した政策の実施を求めていく。

これからも一致団結して頑張ろう！

### ● JR上場4社の第1四半期決算（四半期純利益）推移 （単位：百万円）

	2020年4月～6月	2021年4月～6月	2022年4月～6月
JR東日本	△155,377	△76,958	18,922
JR東海	△72,651	△28,442	47,001
JR西日本	△76,791	△32,085	57,872※
JR九州	△5,119	927	6,915

※JR西日本の四半期純利益には、4月に認定を受けた事業適応計画に基づく税制特例により、繰越欠損金に係る繰延税金資産の未計上額を全額計上したことに伴う一時的影響（435億円）を含む